
夏の日

どり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の日

【Nコード】

N1787T

【作者名】

どり

【あらすじ】

夏の記憶。

過去と今が入り交じった感じで書けたらいいなと。

（前書き）

昔の記憶を小説風に書いてみたくなりました。
すぐく、切ない気がします。

もう、あの頃にはもどれないからでしょうか。
当たり前だけど。

浩は小学校の門を出た。

外は暑い夏。

いつもは車なのに、今日は何の気まぐれか、歩いてみたくなった。自身が子供の時も通った通学路。そんな記憶が浩を誘ったのか。

陽炎が立つ、子供達とすれ違う細い道。

車がくればそれだけで一杯になってしまう。

何人かで遊んで通った。

細い川は埋め立てられていた。

その前の畑は、たしか桑の葉でいっぱいだった。

角にあったのは、雑貨屋さん。

消しゴムを忘れたとき、そこで買ったような気がする。

それとも三角定規だったかも知れない。

やさしそうなおばちゃんがいた。

もう、家ごとない。

そこにあるのは三階建てのマンション。

信号を曲がると、歩道付きの立派な道。

でも、通ったのは歩道もない、狭い道。

靴の底にべったりと張り付くアスファルト。

指で触ると、くっついてくる。

それを摒や葉っぱに擦りつけていた。

それでも指先は黒く汚れていた。

そんな夏の日。

プールの後。バス代をケチって、飲むフアント。
友達と交ぜっこ。
オレンジとグレープの色がへんてこな色に化ける。
瓶の四角い印、転がっている王冠。
まわる扇風機。

黒い雲。夕立が近い。

走り出して逃げ込むバス停。

アスファルトの上にたたきつける雨。

雨の臭い。

時間なんか関係ない。いつまでだって待てる。

雨がやめば、虹が出迎えてくれる。

ボンネットのバスが行く。冷房なんて入ってない。

開け放した窓から女の車掌さんが見える。

立ち話のおばあさん。

開け放した玄関。

聞こえてくるのは高校野球か。

すててここにうちわで見入っているおじさん。

帰れば、待っているのは冷えたスイカ。

食べかすにやってくるカブトムシ。

クロアゲハだって飛んでくる。

又歩こう。浩は汗を拭きながら思った。

麦わら帽子の自分と、すれ違ったような気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1787t/>

夏の日

2011年10月8日18時11分発行